

審議会等の会議結果報告書

【担当課】生涯学習課図書館係

会 議 の 名 称	令和7年度第1回図書館協議会		
開 催 日 時	令和7年7月3日（木） 午後4時00分～5時40分		
開 催 場 所	茅野市図書館		
出 席 者	矢崎智義委員長、松岡隆志副委員長、奥原貴美子委員、小田由美委員、志水琴美委員、田村満利子委員、千野憲一委員、山田哲靖委員、山田教育長、小池生涯学習部長、矢嶋生涯学習課長、伊藤図書館長		
欠 席 者			
公開・非公開の別	公開・非公開	傍聴者の数	0人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容		
生涯学習課長	1 開会（生涯学習課長） これより図書館協議会を開会させていただきます。本日司会進行を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いします。 それでは、さっそくですが委嘱書の交付をしたいと思います。今年度は委員の改選年ですので、令和7年と8年の2年間の任期となります。よろしくお願いします。		
教育長	2 委嘱書の交付 （教育長から委嘱書が交付される） 3 教育長あいさつ こんにちは。昨年度からの委員の皆さまも今年度から委員になられた皆さまもよろしくお願い致します。今日は次第にありますように令和7年度図書館運営について、今年度図書館を少しでも良い方向に変えていこうということで、話し合いをしたいと思います。ささやかな一歩が大きな改革に繋がっていくと思いますので、どうか忌憚のないご意見をよろしくお願いします。		
	4 自己紹介 （委員及び職員が自席で自己紹介を行う） 5 図書館協議会委員の役割について （資料1により、図書館協議会の役割について事務局から説明） 6 正副委員長の選出について （選出について特に意見はなく、事務局の腹案により選出・承認される。 （正副委員長あいさつ）		
委員長	7 会議事項 （1）令和7年度図書館運営について 審議会の公開について事務局から説明をお願いします。 （資料2により、審議会等の公開について事務局から説明）		

	(特に異議はなく、本日の会議について公開することを決定) (資料 3、資料 4 について図書館長から説明を行う)
委員長	資料 4 の貸出者数と来館者数はどのような関係ですか？
図書館長	来館者数とは別の数字になります。来館者数については調べまして、後ほどお示しします。
委員長	わかりました。それでは、ご質問やご意見をお願い致します。
副委員長	質問ですが、資料最後の「ネット等からの資料予約件数」とは、予約が入って実際に貸し出された数ということですか？
図書館長	キャンセルされる方もいるのでそのまますべてが貸出の件数ではありません。申し込みがあった件数になります。
副委員長	予約をせずに本を借りる方もいますよね？
図書館長	そうです。予約の方はネットから申し込むか、窓口で申込用紙に記入していただき、その後本の用意が出来たら連絡をして、利用者さんに図書館へ取りに来ていただき貸出をしています。
副委員長	私はネット予約の件数が非常に多い印象を持ちました。資料を見るとやはり子どもさんに向けて本を紹介したり読み聞かせをしたりという企画が多いのがわかります。けれども、「茅野市図書館運営及び課題」の中に、憩いの場、拠り所、交流となる図書館づくり、様々な年代の方に図書館を利用してもらいたいという目標が掲げてあるので、これが出来たら本当にいいなと思います。ただ、この目標に向けて実際にどういう活動が行われていて、どのように図書館を利用しているかというのがわからないので、その部分をこれからやっていけたらいいのかなと思いました。
委員	茅野市の図書館は赤ちゃんから読書に親しもうということなので読み聞かせを重点的にやっているけれども、大人を対象にした講座がないということを以前から言われています。でも、図書館に朝一番にやってくる人はおそらく平日は高齢者の方なのですね。 子どものためのおはなし会は、諏訪 6 市町村の他の図書館でも活発にやっていますので、茅野の図書館が子どものためのおはなし会に特別秀でているとは私は思っていないです。もっといろんなことができると思います。 大人向けの講座については、コロナ前から言われていて、コロナの期間は活動がなかなか難しかったと思いますし、職員が来館した人に話しかけることも難しかったと思うのですが、コロナ禍を経て今もお図書館に行ってもフロアで職員の方に行き会って挨拶することがないように感じます。こちらから挨拶すれば「こんにちは」と言ってくれるのですが、なかなか職員の方からの声掛けがないので、コロナ禍の時の状況がそのまま継続されているのかなという気がします。 図書館に行ったらちょっと本のお話をしたいなと思える職員がいないと、来館者を増やすのはなかなか難しいと思います。子どもから高齢者までみんなが行きたいと思えるようになって初めて心躍る図書館になるのかなと思います。

委員	今私が1番茅野の図書館で気に入っているのは展示です。展示はとても工夫してくださってすごく良くなったと思います。 その他では、壊れた本が多すぎるように感じます。忙しいと思いますが修理も図書館の業務だと思うので、大事に修理しながら使っていけるようにして欲しいなと思いました。 今のお話の続きになりますが、私は家が原村図書館の方が近いので、いつも割と小さいお子さん向けの本は原村図書館で借りることが多いのですが、先日はじめて茅野の図書館で借りてみようと思ったら、手にした本の半分ほどに「破れあり」というシールが貼ってありました。確かに小さい子は借りた本を舐めたり破ったりしてしまうので仕方ない部分はあると思いますが、借りるお母さんからするとあんまりボロボロな本ばかりだと印象が良くないなということを感じました。 おはなし会や講座については、私はおはなしくれよんに所属しているので、毎週土曜日に図書館でおはなし会をやっていますが、資料を見るとまだまだ知らない講座があるのだなと思いました。ですので、告知の仕方がすごく大事なと思います。絵本の活動をする中で、今子育てをしているお母さんたちに、「絵本で子育てをすると楽しいですよ」「子育てが楽になりますよ」ということをお伝えしたいとずっと思っていて、今年度初めておはなしくれよんにお母さん向けの講座をやってくれませんかとお話をいただいたのがとても嬉しくて、第1回目の講座として赤ちゃん向けの絵本の読み聞かせ講座をやったのですが、参加者に子連れの方は1人もいらっしゃいませんでした。それはそれで良いと思うのですが、本当に今現在子育てをしているお母さんたちに図書館に来ていただいて、絵本の楽しさや、絵本の読み聞かせの仕方をお伝えする場があったらさらに良いなと感じているので、告知の仕方など工夫をしていけたらと思いました。
委員	コロナ禍を経て図書館が岐路に立っているように感じています。最近では、本という媒体で情報を手渡すだけではなくて、電子の面から情報を手渡すのも図書館の役割になってきているように思います。長野県だとデジとしょ信州が始まっていますし、本だけではなくデジタルの媒体で利用者が情報を受け取るということがコロナをきっかけとして増えてきています。 学校図書館が情報センターと言われるようになったのはずいぶん前からですが、その情報に紙以外の情報も含まれるようになってきていて、それを情報の担当の先生にすべてお任せしてしまうと図書館が排除されてしまうというところがあるので、もっとうまく連携を取ってやっていくことができたらと思っています。 特に中高生は生活の中で個人のタブレットやパソコンを持っている歳の子たちなので、本の良さを知っていても、携帯で漫画が読めるしいいやという世代の子がとても多いです。私の子どももちょうどコロナで2か月学校がお休みになった時に中学生と高校生だったので、その際に1人1台パソコンを持たされて、オンラインで授業を受けたり資料が配布されたりした世代でした。それより下の世代の子たちはもっと進んでいて手元にタブレットがあるのが当たり前という子たちなので、その子たちに本の良さとデジタルの情報の活用の仕方の両方を教えていかななくてはと思っています。 公共図書館でも学校図書館と同じことができると思って子どもたちが行くと、公共の図書館には検索用のパソコンしかなかった、となって中高生が公共の図書館から離れてしまわないように、デジとしょ信州と連携したりして補っていけばいいなと思います。そのアプローチの仕方は学校の司書としても手探りでやっているのが現状なので、そういった面でも公共図書館と学校図書館の連携が取れるといいなと思っています。

委員	前の会議の時だったと思いますが、図書館の方から希望図書の件数が増えていて、朝はその処理をするのにとっても時間がかかってしまい、その他のサービスをする余裕がないというような発言があったかと思います。私も昔茅野市の図書館に少しいたことがあります、朝予約本を探すのは大変な作業でしたので、これだけ件数が増えるとそれ専用の人を雇わないとなかなかこなせないという事情はよくわかりました。 私は図書館に来て書架を見ながら「あ、こんな本が入っているんだな」と思いながら手に取って2～3行読んで「この本は自分と相性がいいな」とか思いながら本を選ぶのが好きで、そういうふうに図書館を利用したいので、自分の読みたい本の続きが入っているかな？と思いながら書架を見るのですが、たぶん私が読みたいと思う本は予約の人に借りられてしまっていて、何回図書館に通っても絶対にその本には巡り合えないという感じです。私は予約を入れるのが苦手なので予約を入れずにその本が戻ってくるまで気長に待ってみよう、と思っているのですが、予約をして取りに来るだけの人が増えた分、書架を見ながら本を選ぶ時間的余裕のある人が少なくなった感じがして、そういう図書館は寂しいなと思ってしまいます。 私は居心地の良い図書館が大好きです。年齢を重ねていくとますます行く場所が限られてしましますが、私は仕事を離れたら図書館通いをして、あの人は決まって同じ席に座って本を読んでいるねと言われるような生活をしたいと思っているので、1日中図書館にいてもいいのかな？と後ろめたさを感じなくていいような図書館にしていだけたらと思います。
委員	私はこの度大学の図書館長になりまして、気が付いたことがあります。大学の図書館にはルールがあって漫画や絵本を買ってはいけないことになっているのに、大学の図書館には絵本が置いてあるのです。これはどうしてかという、保健室が学生のメンタルケアのために絵本を図書館に入れていいます。それを見て私は、学生でも絵本を読んでいいのだなと気が付きました。学生や、子育てが終わったわれわれ世代が読んでもいいし、絵本を読む対象の方は実はもっと広いのではないかと感じました。ターゲットを子どもさんに限らず、もっと広く考えても良いのではないかと思います。
委員長	貴重なご意見をありがとうございます。先ほど「交流の場」にするのならもっと具体的に考えていったらというお話がありました。運営目標にいろんな項目が載っていますけれども、これを全部やろうとしたらおそらく職員の方がパンクしてしまうと思います。そこで、今年皆さんと話をして、今一番必要なものはなんだろうか、あるいはこの事業は民間に任せて職員は別のことをやりましょう、というようなことを考えていけたらいいのかなと思います。 それから、大人、高齢者が対象になっていないというお話もありました。私も毎回同じことを言ってきました。図書館の利用者を見ると、65歳以上の方が全体の1/3以上いらっしゃいます。どうしてもお子さんたちに目がいてしましますが、大人や高齢者の方たちにも目を向けていく必要があるのかなと思います。 他には壊れた本が多いという話もありましたが、修理するのは難しいものなのでしょうか？
委員	利用者の方が「うちの子が破っちゃったんです」と言って本を持ってくると、セロテープを貼ってくる方がけっこういます。でも、セロテープを貼ってしまうと、その後が酷い痕になってしまって大変なので、図書館には専用の補修用のテープがあるので、壊れてもそのまま返却してくださいと利用者さんにひとこと声をかけてくださいねとお願いしていました。

生涯学習課長	あとは、糸がほつれてしまった本などもあります。本はどうしても子どもたちの扱い方によっては壊れやすく、直し方にもコツがあります。一時期修理の仕方の講習を図書館で受けて、直すボランティアをやったことがあるのですが、例えば、そういうことをすると市民と図書館の距離が近くなると思います。そうやって修理してくださる市民の方を募集するのもいいと思います。 今、耳寄りなお話をお聞きしました。図書館の職員も仕事が忙しくて手いっぱいになっている所があります。だったら他の図書館でやっているように、ボランティアをお願いできないかということは内部でも話をしていたところですよ。予約本を用意するのはボランティアでもできるものなのではないでしょうか？
委員	誰が何の本を借りているかというのは個人情報になるので、たぶんそれは難しいのではと思います。
部長	誰が借りているのかという情報をボランティアさんには伝えずに、本を探してもらうというやり方もあるのかなと思いました。そうすると市民の皆さんと接点も出来ていいのかなと思います。
委員長	まさに私が言いたかったのもボランティアさんをお願いしてもっとうまくやればいいのかということでした。茅野市の姉妹都市のロングモントに行った時にデンバーの博物館に寄りました。その時にバックヤードを見させてもらったら、バックヤードで市民の方たちが展示物を作っていました。ボランティアさんをお願いするにしても、用意が必要になってきて大変だろうなとは思いますが、それをやることで市民と接点ができますし、市民からしてみると図書館の活動に参加ができるということになるので、図書館でボランティアの窓口を作ってみるのも良いのではと思います。
教育長	委員長さんが言われたように、今の図書館はちょっと欲張りにたくさんのことをやっているように思います。この先やっていく事業は厳選しなければならぬと思います。おはなし会や講座については、ボランティアの方に準備・運営をお願いできないのかなと個人的には思っています。市民館のサポートCさんのようなやり方があって、企画からある程度考えて下さって運営してもらうというやり方もあるのですよね。 例えば、定例のおはなし会の準備や運営をボランティアさんにやってもらえば、職員の負担が減るのではと思っています。
委員長	情報の話が出ましたが、図書館の役割として情報リテラシーの話が今後出てくると思います。それも大事なことだと思います。 今年度を通して、基本方針の「行きたくなる、ころおどる図書館」を目指して、そのために何をやっていったらいいのかという話をしていきます。 そこでぜひ皆さんにお願いしたいことがあります。もちろんそれぞれのお立場で専門にされていることがあるかと思いますが、図書館全般について、色々な本を読んでいただきたいです。茅野市の図書館に図書館関係の本が集められているコーナーがあります。そこにぜひ寄っていただいて、図書館の可能性について触れた面白い本がたくさんありますので、手に取って見ていただき、委員の皆さまには高い志を持っていただきたいと思っています。 いくつか本を紹介させていただきます。「未来をつくる図書館」これはニューヨーク図書館の話ですけれども、この本を読むと図書館でこんなことまでできるのだということに気付かされます。それから、比較的新しい本で

	「町の未来をこの手でつくる」これは図書館を核としたまちづくりの話です。それから根本彰さんという方の「情報基盤としての図書館」図書館というのは本の貸出だけではなく情報を扱う場所で、そのためにはただ本を積んでおくのではなくて、市民との間に人間が介在することが大事だよということが書かれています。図書館には確かな情報のストックがあって、そのストックを使うのが図書館の仕事だということが書かれています。その他にも韓国の司書の方が書いた本ですとか、図書館関係の本がたくさんあります。ぜひ皆さんに読んでいただいて、広い視野で図書館のことを考えていただければと思います。
副委員長	今紹介して頂いた本は茅野市の図書館に全部ありますか？
委員長	今紹介した本は私の私物なので全部あるかはわかりません。もうひとつ、私が迷ったときにいつも戻る本があります。「図書館のめざすもの」この中にアメリカの図書館協会が作った12か条というものがあります。図書館には図書館憲章だとか色んなものがありますが、アメリカ図書館協会の12か条がいちばん広い視野で図書館を見ていると思います。ですので、ぜひそれを見ていただきたいです。今日印刷してきましたので、皆さんにお渡しします。ご興味がある方は原文で読んでいただいたほうがより理解が深まりますので、ご希望があれば原文をお渡しします。 これはかなり古いものなのですが、時を経ても色あせていません。①図書館は民主主義を維持します。②図書館は社会の壁を打ち破ります。③図書館は社会的不公平を改めるための地ならしをします。④図書館は一人ひとりを大切にします。⑤図書館は創造性を育てます。⑥図書館は若い心を開きます。⑦図書館は大きな見返りを提供します。⑧図書館はコミュニティをつくれます。⑨図書館は家庭を支えます。⑩図書館は、情報機器を使う能力と考え方を育てます。⑪図書館は心の安らぎの場を提供します。⑫図書館は過去を保存します。何かに困ったらこの本に戻ると偏らずに図書館を見ることができのかな、と思います。 私はこの会議を始める前に館長と何度か打ち合わせをして、こういうこともやりたい、ああいうこともやりたいと言ったらそれを言われてもこっちも手一杯で大変なんですよと言われました。今まで歴代の何人かの館長さんと話してきましたがそう言われたのは初めてで、確かにそうだな、と思いました。ですので、やることをある程度選ばないと全部は無理なのだろうなと思っています。 今年はこれをやります、で充分だと思います。そうすればきっと市民の皆さんにも図書館で何をしようとしているのか伝わりますし、職員さんも今年はこれに力を入れて頑張ろう、とひとつになれますので、1年ごと別のことをするのも良いと思うので、これをやると決めたことにヒト、モノ、カネといったエネルギーを注いでいけばいいと思います。これまでの協議会では委員の方が意見を言って終わりということが多かったと思いますが、そうではない形で図書館に対してアプローチしていけたらいいなと思います。 できればこの会議も、職員の方と一緒にやりたいと思っています。そういうことは可能ですか？
図書館長	第4金曜日が図書館の整理日になっています。職員がシフト勤務のため時間が揃っていないので、時間帯によりますが可能だとは思っています。
委員長	もし可能なら、職員の方も一緒に議論をして分かったうえでやってもらった方がいいですし、私たちも現状がわかるので、机上の空論にならずに済むのではないかと思います。

図書館長	第4金曜日でよければ、そういう時間が持てると思います。時間だけまたご相談させていただければと思います。
委員長	どのように進めるかはまた工夫する必要があると思います。委員の方はおそらく皆さん図書カードを持っていらっしゃると思うので、帰りに図書館で本を借りていってください。他にご意見ある方はいますか？
委員	私は「こころおどる図書館」にするためには図書館の職員がハッピーでなければ、いくら協議会の委員が何かを言っても、そうはならないと思います。図書館の職員の方が、無表情なんです。笑顔がないように思います。私は図書館で昔働いていた時、図書館に来るのが嬉しくて仕方ありませんでした。職員さんには人と関わることを厭わず、ハッピーでいて欲しいです。そうでないと、いくらこころおどる図書館と言ってもそうはならないです。
副委員長	今日、この会議を始める前に委員長とそもそもこの図書館協議会の役割ってなんでしたっけ？という話をしました。館長から最初に説明がありましたが、「図書館協議会は、図書館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、図書館の行う図書館奉仕につき、館長に対して意見を述べる機関とする」とあります。基本的に市役所が設置する協議会だとか審議会の役割は市民の方から意見を拾うことだと思うのですが、そうするとどうしても会議に出て委員が意見を言っただけで終わりになってしまいます。 今日のお話だと実際に働いている現場の方は手一杯だということですが、この会議が紙の上の形だけの文言で終わるのではなく、この協議会をきっかけに実際にどういう活動を行っていきけるかが大事だと思います。意見を言っただけと離れたところから見ていただけという状態なのがこれまででしたが、今までとは違う形が創れないのかな、と思っていますしその可能性に期待したいです。そのために職員の方と一緒に話をしたいですし、ボランティアを募集するという形で図書館を起点に街を盛り上げようという動きが出てくれば面白いなと思います。 私が大学で図書館に携わっていた時に、うまく学生を巻き込めないだろうかという考えは常にありまして、大学は大学で本当に忙しいのですが、それでも学生バイトという形でしたけれども、学生は私たちが思っていたより一生懸命やってくれていました。高校生のボランティアもそうですが、そういった若い人たちを巻き込めればいいなと思います。 それから、今30代～40代の方で茅野市出身の方が東京などから戻ってきて、街を盛り上げようという方がたくさんいます。飲食業の関係の方だとか、何人か私も知っています。そういった方たちに文化的なことの企画をしてもらおうということも、もしかしたらできるかもしれません。 市民をうまく巻き込んで図書館の具体的な活動に繋げていく、それはやはりボランティアになるのでしょうけど、それを今年考えて何かひとつ実際に活動ができれば、かなり大きな一歩になるのではないかと思います。
委員長	他にご意見はございますか？
生涯学習課長	今回から茅野市こども読書活動応援センターの先生に入ってください。先ほどもお話がありましたが、ぜひこれから図書館を盛り上げていきたいということがありましたので、事務局の布陣を強化するために入っていただいております。先生からもひとことお願いします。
こども読書活動応援センター長代理	ありがとうございます。布陣の強化に繋がるのか不安ではありますが、会議に参加されている皆さんがとても前向きでいらっしゃるなので、心強いなと感じながらお話を聞いていました。何かひとつでもいいから行動に移せたら

	と皆さんおっしゃっていましたので、私もそのためにできることがあればいいなと思っています。 夏に向けて色々な場所で茅野市の活動をお伝えする場面が多くなるのですが、改めて今読書の森づくりを見直しています。茅野市の読書活動を支える大元はここだと思っているので、これから皆さまと共有できたらと思います。 それから、委員長さんが図書館関係の本を紹介して下さったので、ひとつ私からも紹介させてください。どんぐり図書室に入ってすぐの左側の雑誌が置いてあるコーナーに「図書館の学校」という機関誌が置いてあります。その中に国内の公共図書館が紹介されていますし、海外の図書館も紹介されています。この機関誌に少し前永明小中学校のメディアセンターも紹介されていました。こちらでは色々な方向性から図書館の活動が紹介されていますので、皆さんに気軽に手に取って見ていただけたらな、と思っています。今後ともよろしくお願いします。
委員長	日本には日本図書館協会があります。アメリカにはアメリカ図書館協会があります。どちらかというとアメリカ図書館協会の方が面白いので、委員の皆さんもぜひネットで調べていただければと思います。
図書館長	先ほどすぐにお答えできなかった来館者数がわかりましたのでご報告します。過去3年間の推移の報告になりますが、令和4年度は88,069名でした。令和5年度は98,994名。令和6年度は99,561名です。
委員長	資料を見ると、貸出者数の2倍くらいの方が来館されているということですよ。本を借りる目的以外で来館していると解釈していいですか？
図書館長	そういった方もいらっしゃると思いますし、今の数字は本館の来館者数で、貸出者数の方は分室を含めての数になりますので、比べる数値に違いはあります。
委員長	今日出てきたお話の中から気になるキーワードを挙げると「大人・高齢者」「ボランティア」「職員さんは手一杯」「職員さんがニコニコしている職場が結果として良い図書館になっていく」でした。確かにその通りだと思います。 それでは少し早いですが、今日はここまでにして今後どのように進めるかを含めて検討していきます。皆さんにもお諮りをしながら進めていきたいと思っていますので、ぜひ、色々な本やネットで図書館の情報を見ていただければと思います。私はよく他の市町村の図書館協議会の議事録を読んだりしますが、意外と公表されているので、そういった形でも図書館の情報を見ることができますし、世界の図書館が今何をしようとしているのか、ということも情報を調べるとわかりますので、様々な情報に触れていただいてご意見をいただければと思います。
委員	申し訳ありません、前半は他の会議に出席していてこちらにおりませんでした。茅野市で読書に力を入れていただいていますので、学校でも読書を大事にしています。朝読書はもちろんですし、調べる学習も今日はちょうどこども読書活動応援センターの先生に来ていただいて、2年生にご指導をいただいたところです。生徒たちは本当に本の好きな子が多いと思います。それは小学校からの積み重ねが大きいのかなと思うのですが、また秋にも「こども読書の集い」というものを校長会が中心となって皆さんに協力してもらいながらやる予定でいますので、その際にはよろしくお願いします。

生涯学習課長	皆さま前向きな議論をありがとうございました。今までにない図書館協議会となりました。最後に部長の方からひとこと申し上げまして、閉会とさせていただきますしたいと思います。
部長	今課長が申しましたが、このような協議会に出させてもらったのは初めてです。というのは、他の会議だと委員の方々は市役所の職員に対してお気遣いいただいたの発言にどうしてもなるのですが、この協議会是我々からすると痛い所を突かれますけれど、私は逆に言っていただくのがエールだと受け止めましたし、おそらく図書館長さんや、他の皆さんもそういう受け止め方をしていると思います。よく課長と施設をどうしていくとかかそういった話をするのですが、まずはこの図書館に関わっているスタッフがこの図書館をどういう風にしたいのかに今後がかかっていると思います。 昨年、富士見町図書館に視察に行った際の記録を私も読んでいます。どうしても比較になってしまうのですが、茅野は茅野で、駅から離れているという不利な点もあるかもしれませんが、緑に囲まれていて自然に恵まれた場所にあるという良さを生かすことも、これからの茅野市図書館の在り方を考えていく上で大事なことで課長や教育長とも話をしています。子どもさんに対しての活動は引き続き力を入れていきますし、居心地の良い、大人の方も行きたくなる、こころおどるような図書館にするためにはどうすれば良いかを私たちも考え、また委員の皆さんと話し合いをしていく中で、何かひとつでも今年はこれをやるというものを決めていけたらと思いました。今後ともよろしくお願い致します。
生涯学習課長	それではこれを持ちまして図書館協議会を閉会させていただきますと思います。本日はありがとうございました。 ～午後 5 時 4 0 分 会議終了